氏名	荒木和美	部署	共通教育科	職名	准教授
研究分野	英語教育				
学位	修士				
学歴	津田塾大学学芸学部英文科（英文学士）　カンザス州立大学（米国）　教育学部　大学院前期修了				
経歴	東京YMCA英語専門学校専任講師、一橋スクールオブビズネス非常勤講師、麗澤大学（留学生別科、学部）非常勤講師、日本橋女学館短期大学非常勤講師、津田塾大学非常勤講師（現在に至る）1999年度より埼玉県立大学保健医療福祉学部専任教員。				
所属学会（役職）	日本e-learning学会 、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2019年度実績】

1．研究業績

（1）著作

	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1						
2						
3						

（2）論文

	論文の名称	単・共	査読	雑誌名、巻（号）、開始-終了ﾍﾟｰｼﾞ	著者、編者名	発表等年月
1	Tolerance toward Our Mother Tongue and Intolerance toward a Foreign Language	単著	あり	(1)Tallinn, Estonia、659 (2)Language in Focus: Contemporary Means and Methods in ELT and AppliedLinguistics、pp.15-31 (3)Language in Focus	(1)Kazumi Araki (2)Cem Can、Paschalia Patsala、Zoi Tatsioka	2019/5/1
2						
3						

（3）学会発表

	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は〇印）	発表等年月
1	該当なし				
2					
3					

（4）その他

	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は〇印）	発表等年月
1	該当なし				
2					
3					

2．競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	該当なし			
2				
3				

３．教育業績				
（１）講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	該当なし			
2				
3				
（２）演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	英語Ⅰ⑩⑫	○	32	授業を担当したクラス⑩在籍数26名。クラス⑫在籍数20名。 ４月の入学時にTOEIC-IPテストを実施し、点数によりクラス編成を行った。授業は、習熟度別に編成されたクラスで実施した。クラス⑩から⑫までは、成美堂出版社より出版されたSocial Issues in a Contemporary Worldを用いて、前期はChapter1～3まで学習した。（Chapter 1 Food and Global Culture, Chapter 2 Global Wealth and Poverty, Chapter 3 Ageing Society)それぞれのトピックについて自分の意見を英語で的確にまとめて文章にし、また口頭でグループ内で発表出来るように指導した。副教材には、金星堂出版から出版されたThe Next Stage to the TOEIC Testを宿題として課題に出した。進度表に学習した問題数と正解数を記載し、学期末に担当教員に提出した。クラス⑩はBasic レベルを用い、クラス⑫はPre-Intermediateレベルを用い、クラス⑪はIntermediateレベルを用いて学習を進めた。各課のAnswer Keyは課題に出した次の週に授業時間内にプリントしたものを学生に配布した。7月末の前期試験には、各クラスごとに３種類の試験問題を作成した。この方法によって、習熟度別によって学習した学生への筆記試験における公正を保つための配慮をした。クラス⑪を担当した非常勤講師との連絡や打ち合わせを定期的に行うことで、授業を円滑にすすめるように努力した。
2	英語Ⅰ⑬	○	16	在籍数19名。教材には、Cengage Learning出版社から出版されたCaring for Peopleを用いた。前期Unit 1～Unit 6までを学習した。（Unit 1 Meeting Patients, Unit 2 Taking a Medical History, Unit 3 Assessing Patients' Symptoms Unit 4 Taking Vital Signs Unit 5 Taking a Specimen Unit 6 Conducting Medical Examination） 看護分野での専門用語を数多く学ぶ機会を提供し、専門分野での応用が出来る人材養成に努めた。また、授業時間内に、英語で会話する時間を十分に設けた。前期試験時には、筆記試験を実施した。

3	英語Ⅱ⑪⑫	○	32	授業を担当したクラス⑪在籍数27名。クラス⑫20名 前期同様、Social Issues in a Contemporary World　の教科書、Chapter 6～8を学習した。（Chapter6　Smoking　Chapter7 Gender Chapter8 Population）　英語Ⅰ同様、それぞれのトピックについて自分の意見を的確な英語の文章にまとめ、グループ内で発表出来るように指導した。TOEICの学習をさらに深めた。各クラスThe Next Stage to the TOEIC TESTの教科書　Unit８～15を学習した。後期期末試験を実施。 進度表に学習した問題数と正解数を記載し、学期末に担当教員に提出した。クラス⑩はBasic レベルを用い、クラス⑫はPre-Intermediateレベルを用い、クラス⑪はIntermediateレベルを用いて学習を進めた。各課のAnser Keyは課題に出した次の週に授業時間内にプリントしたものを学生に配布した。7月末の前期試験には、各クラスごとに３種類の試験問題を作成した。この方法によって、習熟度別によって学習した学生への筆記試験における公正を保つための配慮をした。クラス⑩を担当した非常勤講師との連絡や打ち合わせを定期的に行うことで、授業を円滑にすすめるように努力した。
4	英語Ⅱ⑱	○	16	在籍19名。教材は、成美堂出版から出版された Nursing Case Studiesを用いた。Unit１～Unit6までを学習した。 （Unit1Risk for Injury:HowとMaintain Safety,Unit2Self-care Deficit: How to Practice Bathing and Hygiene, Unit3Respiratory Disorders:How to Relieve Respiratory Distress, Unit4 Fluid Volume Deficit:How to Maintain Fluid Balance, Unit5 Insomnia:HOw to Promote Rest and Sleep,Unit6 Chronic Pain:How to Minimize or Relieve Pain） 後期の授業では、主に看護の分野における様々なケースに関するテキストを読んで理解することを授業の目標とした。また、看護に関する語彙も更に学習した。
5	英語Ⅲ⑩	○	16	授業を担当したクラス⑩在籍数24名。 １年次４月の入学時にTOEIC-IPテストを実施した点数によりクラス編成を行った。授業は、習熟度別に編成されたクラスで実施した。教材にはCengage Ｌｅａｒｎｉｎｇ出版社から出版された、Read Smartを用いた。前期はUnit1～Unit5まで学習した。（Unit 1 Birth Order and Personality, Unit 2 The College Dropout, Unit 3　Just a Game, Unit 4 The Brick Factory, Unit 5 Man's Best Friend）副教材には、成美堂出版から出版されたe-learning教材、English Centralを用いた。履修学生の学習量と進度によって、20パーセントを前期の成績に加味した。授業には、通常教室とコンピュータ教室の両方をほぼ毎時間使用した。試験は、１時間目と２時間目に配置されたクラスによって、不正を防ぐ目的で、２種類の別問題を作成した。クラス⑪と⑫を担当した非常勤講師２名との連絡や打ち合わせを定期的に行うことで、授業を円滑にすすめるように努力した。
6	英語Ⅳ⑪⑫	○	32	授業を担当したクラス⑪在籍数26名。クラス⑫20名。 Read Smart Chapter ６～10をどのクラスも学習した。前期同様、授業の後半はコンピュータ教室（CAT)でe-learning教材English Centralを用いてリスニングおよび発音の練習を継続した。第２回目のTOEIC-IPテストを実施。得点によって後期成績の一部に加味した。

7	英語演習Ｃ	○	16	Oxford English Grammar Course Basicを教科書として用いた。Section 1からSection 10までを学習した。（Section1：be and have, Section2： present tenses, Section 3：talking about the future, Section 4：past tenses, Section 5: perfect tenses, Section 6：modal verbs, Section 7：passives, Section 8：questions and negatives, Section 9：infinitives and -ing forms, Section 10：special structures with verbs 教科書のレベル1は比較的簡単な問題であるため、宿題とし、授業時間内にはレベル2をクラスで学習した。基本的な文法の理解のみではなく、書くこととスピーキングの基礎となる発話練習、ストレス、イントネーションの習得にも時間を費やした。高校までの英文法の理解だけにとどまらず運用のレベルまで文法項目を十分に理解し練習することで学生の流暢な会話力を高めることが出来た。

（３）実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ヒューマンケア体験実習①		2019年9月23日 ～ 9月26日	1.越谷市社会福祉協議会老人介護施設ディホーム「喜左衛門」における1年生4名を対象に実施された実習を担当。6月の事前訪問、8月の学生対象のグループ別オリエンテーション、9月末の実習地への引率等の業務を担当。および前期２回実施されたグループごとの学内担当者会へ出席。
2	ヒューマンケア体験実習②		2019年9月23日 ～ 9月26日	1.越谷市特定非営利活動法人「合」における１年生６名を対象に実施された実習を担当。６月の事前訪問。８月の学生対象のグループ別オリエンテーション、９月末の実習地への引率等の業務を担当。および前期2回実施されたグループごとの学内担当者会へ出席。
3				

（４）論文指導

	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	該当なし		主指導　名	副指導　名
2			主指導（指導教員）　名	副指導（指導補助教員）　名
3			主指導（指導教員）　名	副指導（指導補助教員）　名

（５）その他

	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	該当なし		
2			
3			

4．社会貢献活動

（1）講演会、研修会、公開講座等の講師

	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	該当なし			
2				
3				

（2）国、自治体、学術団体等における委員等

	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	越谷市国際交流協会	越谷市国際交流協会理事および青少年交流委員会委員長	2019.4～2021.3
2			
3			

（3）ジャーナリズムでの発言

	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
2			
3			

（4）その他

	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
2				
3				

5．学内運営

	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	国際交流委員	2019.4～2020.3
2	学科等における委員会等	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会総務委員	2019.4～2020.3
3	学科等における委員会等	共通教育科定例会議への出席	2019.4～2020.3
2	学科等における委員会等	教養科目担当者会定例会議への出席	2019.4～2020.3
3	学科等における委員会等	英語専任教員会議への出席	2019.4～2020.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	入試業務（社会人入試、推薦入試、センター試験、一般前期試験）	2019.4～2020.3

6．受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）

	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		

7．特許の取得

	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		

8．特記事項